

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果考察～その2～

校長 高橋 秀吉

今年の4月に実施された平成30年度全国学力学習状況調査の結果について、前号では生徒質問紙調査から見えてくる課題として「自己有用感」を取りあげました。授業においてはもちろんのこと、各種行事、学級活動、委員会活動、部活動等においても生徒一人ひとりが活躍できる場を更に考えていきたいと思えます。

さて、今回は教科に関する調査結果について考察します。横浜市全体の特長として中学校では国語、数学において、「知識」に関する問題よりも、「活用」に関する問題のほうが、全国の平均正答率に比べ2ポイントから3ポイント高い状況です。

本校の状況は次の通りです。

●【国語A：主として知識】

平均正答率は、全国（公立）が76.1%、神奈川県（公立）が76%、日吉台中が80%でした。平均正答率では全国、神奈川県ともに大きく上回り、このA問題において全国トップの正答率の秋田県（80%）と同じでした。

●【国語B：主として活用】

平均正答率は、全国（公立）が61.2%、神奈川県（公立）が62%、日吉台中が67%でした。このB問題でも全国、神奈川県ともに大きく上回り、全国トップの正答率の秋田県（66%）を1ポイント上回っています。

■結果の考察

国語の正答率はA、Bともに全国、県の平均を上回り、概ね良好な結果であると考えられます。正答率が著しく低いところは、国語Bの「書く能力」と「言語についての知識理解」のうち、語彙力に関する部分です。これは本校に限らず全国的な傾向と言えます。基本的な言葉の使い方、語彙量と作文力は密接な関係があると思われます。読解は概ね正答率が高いが、語彙力が課題であることから、安定して読むことができているか少々不安が残ります。漢字の読み書きについて、問題によって正答率に差が生じているのも、同様に語彙力の課題が背景にあると思われる。

生徒の意識として、「国語は大切である」との認識は高いです。また「国語が好きだ」という生徒の割合も比較的高いようです。今後は語彙力の向上を図るために読書量を増やしたり、作文指導に今まで以上に力を注いだりする必要がありそうです。



●【数学A：主として知識】

平均正答率は、全国（公立）が66.1%、神奈川県（公立）が66%、日吉台中が73%でした。平均正答率では全国、神奈川県ともに上回り、このA問題において全国トップの正答率の福井県（72%）を1ポイント上回っています。

●【数学B：主として活用】

平均正答率は、全国（公立）が46.9%、神奈川県（公立）が48%、日吉台中が56%でした。平均正答率では全国、神奈川県ともに上回り、このB問題において全国トップの正答率の福井県（53%）を3ポイントも上回っています。

■結果の考察

数学の正答率もA、Bともに全国、県の平均を上回り優れた力を発揮しています。「数学が好きである」「数学の勉強を大切だと思っている」「数学を普段の生活の中で活用できないかを考える」「数学が将来、社会の役に立つと考えている」という項目について全国と比べても割合が高く、興味・関心・意欲の高さがうかがえます。本校の特長である少人数制指導の効果が出ていると考えられます。

課題としては、単に公式を使って解くという操作だけではなく、その本質的な内容に向き合う姿勢や、いかに簡潔に問題を解くかという深い学びにつなげることです。

●【理科】

平均正答率は、全国（公立）が66.1%、神奈川県（公立）が66%、日吉台中が70%でした。平均正答率では全国、神奈川県ともに上回り、この問題において全国トップの正答率の石川県・福井県（71%）をやや下回っています。

■結果の考察

「理科の勉強は好きですか」「理科の授業は大切だと思いますか」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いませんか」という質問では高い割合を示しています。また、「観察や実験が好きですか」という項目も高い割合であり、理科への興味・関心の高さと、体験的な学習に対する高い意欲を示しています。

人権作文コンテスト 神奈川県で金賞を受賞！！

★人権作文で3名の生徒が入賞しました。人権的な視点から学校生活や社会生活を考えていくことはとても大切であると思います。おめでとうございます！

神奈川県	金賞	「居心地の良い場所」	1年	原田 素希
横浜市	優秀	「見えない『努力』」	2年	栗屋 暲
横浜市	入賞	「一人ひとりが大切な存在」	1年	磯 優笑